

ダム管理等フォローアップ
意見を受けての報告書修正対応表

【九頭竜ダム】

平成21年3月

近畿地方整備局
九頭竜川ダム統合管理事務所

【九頭竜ダム】

1. 事業の概要

特に無し

2. 洪水調節

特に無し

3. 利水

特に無し

4. 堆砂

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
4.4 堆砂傾向の評価 本編 p 4-6	・九頭竜ダム流入部に濁水対策として設置した副ダムの堆砂対策として利用や、副ダムに堆砂した砂の有効活用について検討することも必要である。	・副ダムの堆砂状況や浚渫土砂の上半原地区の周辺整備への活用について本編 P4-6に記述している。	・今後も副ダムの堆砂状況を把握し、状況に応じて堆積土砂の有効活用を図っていきたい。

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.6 水質保全施設の評価 本編 p 5-144 ~ 146	・水質の視点で、ダムのパフォーマンスによって環境がどのように変化をしているかについて見ると、水温については検証をしっかりと行う必要がある。高水温が影響無いといえるか、冷水は苦情がないから良いといえるか。取水方式を表層から全層取水に切り替える瞬間には、大きな水温変化が生じている。運用を改善できる場所は改善する必要があるのではないかと。	・水温の変化の影響については現時点で把握できていない。 ・取水設備の運用については設備の管理者である電源開発(株)と協議を行っているところである。	・水温の変化の影響については今後検討を行っていく。 ・取水設備の運用については引き続き電源開発(株)と協議を行っていく。

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・生育状況の変化の把握 本編 p 6-62 ~ 99	<p>・ダムによる影響を検討する場合に、それを評価できるデータが取得されているかどうかの問題となる。下流河川での調査をみると、移動力があり、放流などダム以外の影響を勘案する必要がある魚については数回の調査が行われているが、環境の変化に敏感な底生動物については平成 18 年の 1 回の調査結果しか行われていない。九頭竜ダムは、ミズナラーコナラ群落が広がる優れた自然が残っている場所だということは、現在のデータから分かるが、ダムができる前の状況は分からない。平成 16 年の洪水で、環境、生物への影響も大きかったと考えられるが、洪水によって河川環境、生物にどのような影響があったのかは国勢調査の結果からは分からない。国勢調査の結果から分かることには限界がある。</p>	<p>・現時点で把握できていない。</p>	<p>・河川水辺の国勢調査の調査内容については全国的な調査要領に基づいており課題として議論していく必要があるが、今後の調査の実施にあたってはご意見を活かすよう努めていく。</p>
6.5 まとめ 本編 p 6-199 ~ 201	<p>・河川水辺の国勢調査はこれまでは 5 年に 1 回行われていたが、マニュアルの改訂で項目によっては 10 年に 1 回になったということだが、課題が確認された調査は、定期調査とは別に調査を考える必要がある。また、結果の分析についても踏み込む必要がある。植物についていえば、特定外来生物のオオハンゴンソウが出現しているが、この種は、開けた明るい場所に生育する。樹林が壊れた結果なのか、元々林縁部なのかを確認する必要がある。水温については、高温よりも低温のほうが、影響が少ないように考える。</p>	<p>・コクチバスについては、別途調査を行って対応を検討する旨を本編 P6-199 に記述しており、H21 年 5~7 月の産卵期に調査及び調査に伴う駆除を実施済み。</p> <p>・カワウについては、別途調査を行う旨を本編 P6-199 に記述しており、H21 年 6 月に調査を実施済み。</p>	<p>・コクチバスについては、今後の対応について福井県自然環境課・水産課と調整中。</p> <p>・カワウについては、駆除の実施について大野市及び漁協と調整中。</p> <p>・オオハンゴンソウについては、既往調査において詳細な確認地点が不明なものもあり、現時点で分析を十分実施するのは困難であるが、今後の調査の実施にあたっては、ご意見を活かすよう努めていく。</p>

7. 水源地域動態

特に無し

8. その他

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
	<p>・フォローアップ委員会において、個別ダムの議論をするだけでなく水系全体で議論ができるようにすることが重要である。流量の整理についても水系の中でどのように水が配分されているか、水系全体での動きがわかるように整理することが望ましい。</p>	<p>【委員会の意見により修正】</p> <p>・水系全体の水の動きとして発電利水等概況図(図1.1-15)及び水利用の現況模式図(図1.1-16)を修正。</p>	
	<p>・ダムが地域に対してどういう影響があるのかについて、市民にもっと分かりやすく情報を提供し、地域との連携を強めることが重要である。例えば、福井市内のハザードマップは河川部局と下水道部局でそれぞれ作成された2種類があるが、違いを理解できている市民は少ない。情報提供にあたっては学校教育との連携も含めて努力して欲しい。</p>		<p>・ダム管理者だけでは対応できないことであるが、今後の取り組みにあたっては、ご意見を活かすよう努めていく。</p>
	<p>・報告書の中で、環境に比べて治水、利水の部分が少ない。環境も大事だが、治水、利水の部分をもっと充実させ、治水、利水の観点でこれまでどのように効果を発揮してきたか、平常時、危機管理時(電力不足時等)の視点、エネルギー開発の面でどのように寄与しているか等、もっと前面に出しても良いのではないか。</p>	<p>・発電の効果の記述について九頭竜ダムの発電事業者である電源開発(株)と調整を行っているが、電力を供給している電力会社からのデータ提示が必要となる関係から報告書に記述できる発電の効果について現時点では把握できていない。</p>	<p>・引き続き電源開発(株)と調整し、次回報告書作成時においてはご意見を活かすよう努めていく。</p>
	<p>・九頭竜川では何が大事かを踏まえて、そのために必要な情報がとられているかを考える必要がある。もし水温が大事であれば、その視点で生物データも整理する必要がある。今ある情報を最大限活用し、九頭竜川の機能を評価することが必要である。</p>		<p>・今後の調査の実施にあたっては、ご意見を活かすよう努めていく。</p>
	<p>・福井県は農業など自然と向きあう産業が中心で、環境との共生が重要となっている。そのためどのような調査を行っていく必要があるかを県においても議論している。国も県も限られた予算で行っており、国と自治体が連携して調査等を行うことが必要である。</p>		<p>・ダム管理者だけでは対応できないことであるが、今後の調査の実施にあたってはご意見を活かすよう努めていく。</p>